

年末年始展示イベント

「つぎ」
2011年の干支である「つぎ」をテーマに、みんなく収蔵の資料を中心に、世界各地の「つぎ」にかかわる興味深い情報をパネルなどを使って、紹介いたします。年末年始の一日を、世界の人ひとと「つぎ」のつながりを知ることでできるみんなくへ「つぎ」をみませんか？
会期 12月16日(木)～2011年2月1日(火)
会場 本館展示場内



月にすむとされるウサギをあらわした玉兔(ぎよくと)。張り子人形 H0013154

特別展

彫刻家エル・アナツイの 아프리카 — アートと文化をめぐる旅 —

ガーナ生まれでナイジェリア在住のエル・アナツイは、現代アフリカを代表する彫刻家です。木の彫刻や廃品を使った織物の作品で知られています。本展では、アナツイの作品とその文化的な背景をなぞっていきます。
会期 12月7日(火)まで
会場 特別展示館

企画展

「アジアの境界を越えて」

本展示は、東アジアにおける境界の認識や実態について古代(5世紀)と近現代(18～20世紀)を比較する試みです。古代では中国南朝や倭の出土品を、近現代の北方では諸民族集団の交易で伝えられた品や衣装・生業道具などを、南方では中国からタイへ移住した諸民族の銀製装身具や儀礼用具などを展示し境界について考えます。
会期 12月7日(火)まで
会場 本館展示場内

「春のみんなくフォーラム2011 — つぎの世界へ —」

情報をつたえ、感情をあらわし、ひとつなげ、音をたのしむ。つぎにはさまざまな役割があります。そして音声、手話、文字など、それを伝え運ぶための顔も美に多様です。言語展示関連イベント、「春のみんなくフォーラム2011 — つぎの世界へ —」では、このようなたつたえの入口をいくつも用意しました。
会期 2011年1月8日(土)～3月31日(木)
◆公開講座
「つぎの世界一周」
世界各地のちよつとめずらしいつぎの入門講座。みんなくの教員が中心になり、90分で完結する講座を23言語で開催します。ぜひチャレンジしてみてください。
①「フィンランド語」 1月9日(日)
②「ベトナム語」 1月10日(月・祝)
両日共に13時～14時30分
※1月16日以降も毎週末開催します。

みんなくセミナー

会場 国立民族学博物館 講堂

時間 13時30分～15時(13時開場)
定員 450名(当日先着順)
参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です。)
第391回 12月18日(土)
バルカン商人と羊飼いの民族国家を求めなかつたつぎと講師 新免光比呂(民族文化研究部准教授)



近代国家形成以前、バルカン半島には縦横に移動する人々がいました。その名は「つぎ」にあるいは「つぎ」に由来する。彼らはもともと羊の移牧を生業としていましたが、やがてバルカン商人といわれる集団に加わり、そしてオスマン帝国とハプスブルク帝国の間をゆき、莫大な富を蓄積しました。彼らは自分たちの民族国家をつくることにはこだわらず、それぞれ帰属する国家を拠点に活動しました。その知られざる暮らしと歴史をみてみましょう。

第392回 2011年1月15日(土)

「新言語展示関連」 みんなくエスノローグ



世界的な言語データベースともいえるエスノローグは7000ものつぎの話者数、分布、系統や地位などの情報を提供しています。今回「新言語展示」では世界各地の言語を画面上で検索し、さまざまな情報を引き出せる装置を開発しました。公用語、民族語、手話なども含めた、みんなくエスノローグを紹介します。

国立民族学博物館友の会 電話06-6877-8893(平日9時～17時) FAX06-6878-3716
http://www.senri-f.or.jp/ e-mail minpakutomo@senri-f.or.jp

友の会

東京講演会

会場 江戸東京博物館 学習室1
定員 50名(要申込)
第95回 2011年1月16日(日) 14時～15時30分
つぎの歴史・ひとの移動史
講師 菊澤律子(民族文化研究部准教授)
語族という言い方を耳にしますが、つぎが同じグループに属するとはどういうことなのでしょう。つぎの分類はなぜ、人の歴史と結びつくのでしょうか。「つぎの遺伝子」の分析と応用についてのお話です。

友の会講演会(大阪)

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室
定員 96名(当日先着順、会員登録必須)
第391回 1月8日(土) 14時～15時30分
つぎの歴史・ひとの移動史
講師 菊澤律子(民族文化研究部准教授)
第392回 2月5日(土) 14時～15時30分
日本におけるチベット研究のはじまり
青木文教のたどった道
講師 長野泰彦(民族文化研究部教授)
仏典を求めてチベットに渡った青木文教は、ラサ市内で4年間を俗人と暮らしながら収集をすすめてきました。仏典だけでなく1910年頃の現地の人びとの生活についての映像資料など、さまざまなものを日本へもたらしました。民博に収蔵されている青木文教の資料や彼の生涯について紹介します。

第77回民族学研修の旅

台湾東部の原住民族を訪ねる
——パイワン族・ブマ族の村へ——
※詳細は上記「友の会」までお問い合わせください。

申込方法
受講希望の方は言語講座名と開催日を明記し、お名前、所属、年齢、連絡先を左記のメールアドレスまでお送り下さい。
seki.yukotoba@dc.minpaku.ac.jp
受講希望講座(つぎ)にお申し込みください。このつぎについての予備知識は必要ありませんが、ローマ字が読める高校生以上のかたを対象とします。講座ごとに定員30名に達し次第、締め切ります。

「研究部の新メンバー」

関本照夫特任教授(先端人類科学研究部)が、11月1日付で着任しました。本館の機関研究「マテリアリティの人類学」において、研究プロジェクトをすすめる予定です。東京大学東洋文化研究所などを経て現職。専門は仕事の人類学、工芸と地域社会、東南アジア研究。著書は『国民文化が生れる時』など。



刊行物紹介

鈴木七美・藤原久仁子・岩佐光広編著
『高齢者のウェルビーイングとライフデザインの協働』
御茶の水書房
定価：2,520円
高齢者の「幸福」という観点から、地域の歴史と特性を生かした調整や工夫の協働作業の経過を、フィールドワークに基づき提示した。

■『民博通信』2010 NO.129
評論・展望
みんなく2010
——『民博通信』の改訂によせて

■『民博通信』2010 NO.130
評論・展望
フィールドワークにおける人間関係

■Min HAN/Nelson GRABURN 編
『Tourism and Glocalization: Perspectives on East Asian Societies』
Senri Ethnological Studies NO.76

●アメリカ展示・オセアニア展示場の閉鎖
新しく生まれ変わるアメリカ・オセアニア展示場に期待ください。
閉鎖期間 2011年3月下旬まで
●休館日・無料観覧日のお知らせ
年末年始は12月28日(火)から1月5日(水)まで休館します。
1月10日(月・祝) 成人の日は本館展示を無料で観覧いただけます。ただし自然文化園を通行される場合、入園料が必要です。
みんなくラジオ「世界を語る」みんなく研究者のお話をラジオでもお楽しみいただけます。
ラジオ大阪(1314kHz)
毎週水曜日 23時30分から24時
毎日新聞夕刊連載「旅・いろいろ地球人」みんなく研究者のエッセイが毎週水曜日に掲載されています。
※詳細については、みんなくホームページをご覧ください。

国立民族学博物館 ミュージアム・ショップ

電話 06-6876-3112
FAX 06-6876-0875
e-mail shop@senri-f.or.jp
水曜日定休

ウェブサイトもご覧ください。
オンラインショップ
[World Wide Bazaar]
http://www.senri-f.or.jp/shop/

今年は「暖かさ」を贈り物に

今年の「クリスマスフェア」に新しい商品が並びます。ドイツからは、ツリーが普及する前のクリスマス飾りの主流だった「クリスマスピラミッド」。ろうそくの炎の上昇気流で上部のプロペラがゆつくりと回転し、中の飾りがぐるりと回っていきます。昨年人気だった愛らしいサンタ人形も新しいデザインが入荷しました。そのほか、エスニックな雰囲気漂わせる刺しゅうが施されたモロッコの履き物・パフ・シユ。贈り物には鹿革の手袋や木製ヘルトが個性的な腕時計のほか、アルパカ衣料品がおすすです。来年のカレンダーは刺しゅうを取り上げた美しい写真で好評をいただいています。プレゼント選びにはぜひミュージアム・ショップをご利用ください。



クリスマスピラミッド 25,725円
腕時計 8,925円～
パプーシュ 3,150円～